

畑作・野菜・花き生産情報 第5号

令和8年8月20日
青森県「農林水産力」強化本部

- ◎ 大豆では、紫斑病、マメシンクイガの防除を徹底しよう！
- ◎ ながいも、だいこんなどの露地野菜では、7月下旬から8月上旬の日照不足や低温の影響により、生育は平年を下回っています。
- ◎ 施設のトマトや花きの生育は、順調です。
- ◎ 台風や大雨に備え、ほ場や施設周辺にある排水口の点検や整備のほか、施設への雨水流入を防ぐために土のうを設置するなど、排水・防水対策を徹底しよう！
- ◎ 気温が高めの予報なので、生育や天候に応じた管理を徹底しよう！
 - ・生育に応じたかん水や葉面散布等を行い、草勢を維持しよう！
 - ・病害虫の発生に注意し、早期発見・早期防除に努めよう！
 - ・施設では換気や遮光をこまめに行うなど、適正な温度管理に努めよう！
- ◎ ツキノワグマ出没警報発令中なので、農作業の際は、ラジオやクマよけスプレーを携帯するなど、人身被害の防止に努めよう！

畑作物

1 大豆

(1) 生育状況

- ・生育は順調である。
- ・開花期は、黒石市は平年より5日早く、藤崎町は平年並み、六戸町と十和田市は平年より4日遅かった。
- ・べと病や食葉性害虫による食害、倒伏が発生しているほ場が見られる。

表 大豆の生育状況（8月10日調査）

場所	年次	は種期 (月日)	出芽期 (月日)	開花期 (月日)	草丈 (cm)	主茎長 (cm)	葉数 (枚)	分枝数 (本)
農 林 総 合 研 究 所 (黒 石 市)	本年	5/22	6/3	7/21	111.5	62.9	14.1	2.2
	(平年差・比)	(3日早)	(2日早)	(5日早)	(123%)	(112%)	(+0.5)	(-0.5)
	平年	5/25	6/5	7/26	90.4	56.1	13.6	2.7
	前年	5/28	6/6	7/20	74.4	46.1	13.1	1.7
野 研 究 所 (六 戸 町)	本年	5/25	6/2	7/29	103.8	68.1	14.5	2.1
	(平均差・比)	(平年並)	(2日早)	(4日遅)	(100%)	(105%)	(+0.9)	(-0.3)
	平均	5/25	6/4	7/25	103.9	64.6	13.6	2.4
	前年	5/26	6/4	7/20	96.9	60.0	13.3	2.9
藤 崎 町 (中 野 目)	本年	6/2	6/12	7/27	97.1	-	13.8	-
	(平年差・比)	(平年並)	(平年並)	(平年並)	(109%)	-	(+0.7)	-
	平年	6/2	6/12	7/27	89.1	-	13.1	-
	前年	6/2	6/11	7/24	92.3	-	12.8	-
つ が る 市 (木 造 柴 田)	本年	6/1	6/8	7/28	78.8	-	13.7	-
	(平年差・比)	-	-	-	-	-	-	-
	平年	-	-	-	-	-	-	-
	前年	5/28	6/7	7/19	103.3	-	14.4	-
十 和 田 市 (三 本 木)	本年	6/4	6/14	8/1	100.6	-	13.8	-
	(平年差・比)	(3日遅)	(4日遅)	(4日遅)	(107%)	-	(+0.5)	-
	平年	6/1	6/10	7/28	93.6	-	13.3	-
	前年	6/5	6/14	7/23	111.4	-	13.3	-

注) ①品種：「おおすず」

②平年：農林総合研究所は過去 19 か年、野菜研究所は過去 3 か年（令和 6 年除く）、藤崎町は過去 15 か年、十和田市は過去 16 か年の平均値。つがる市は R6 から設置のため平年値なし

(2) 今後の留意点

- ・立枯病発病株を確認したら、速やかに抜き取りを行い、ほ場外で処分する。
- ・紫斑病は、開花期後 20～40 日の間に防除する。なお、チオファネートメチル剤、ベノミル剤、アゾキシストロビン剤に対する耐性菌が県内にも分布しているので、薬剤の選択には注意する。アゾキシストロビン剤の効力が低下していないほ場では、Q o I 剤（FRAC コード：11、アミスター20 フロアブル等）の使用を 1 作につき 1 回までとする。また、耐性菌の新たな発生や発生地点の拡大を回避するため、連年使用せず、2～3 年に 1 回の使用にとどめる。
- ・ツメクサガ、ウコンノメイガ等の食葉性害虫の早期発見・早期防除に努める。
- ・カメムシ類による被害が予想される場合は、着莢期から子実肥大中期に薬剤防除を行う。
- ・マメシンクイガの防除を次により徹底する。

散布時期	薬剤の種類
8 月第 6 半旬～9 月第 1 半旬に 1 回散布（ただし、多発生の場合は、8 月第 5 半旬に 1 回目、7 日後に 2 回目を散布）	トクチオン乳剤、パーマチオン水和剤、トレボン乳剤、トレボンMC、トレボン粉剤DL、アミスタートレボンSE、アディオン乳剤、アグロスリン乳剤、モスピランSL液剤、モスピラン顆粒水溶剤、プレバソンフロアブル5、ベネビアOD、グレーシア乳剤、トライトレボン粉剤DL、ミネクトエクストラSC、トレボンスカイMC
9 月第 1 半旬に 1 回目、その 7 日後に 2 回目を散布	エルサン乳剤、スミチオン乳剤、エルサン粉剤2、ダイアジノン粒剤5、スミトップM粉剤

注) 登録内容は令和 8 年 8 月 12 日現在

- ・台風や大雨に備え、明きよを手直しして排水溝へ接続するなどの対策を徹底する。

2 小 麦（は種の準備）

- ・は種が早いと生育が進み過ぎて雪腐病の発生を助長し、遅いと越冬前の生育量が不足するので、は種適期である 9 月 15～25 日に確実に種できるようなほ場を準備する。
- ・ほ場の団地化を図り、明きよや弾丸暗きよなどで十分な排水対策を行う。
- ・土壌分析を行い、酸度矯正が必要な場合は、苦土石灰等により土壌改良を行う。
- ・紅色雪腐病の保菌種子の持ち込みによる被害を防止するため、薬剤による種子消毒を行う。

野 菜

1 ながいも

(1) 生育状況

- ・地下部の生育は、7月下旬から8月上旬の日照不足や低温の影響により、平年を下回っている。
- ・病害虫は、ナガイモコガの発生が見られる。

表 ながいもの生育状況 (8月10日現在)

調査地点	年次	植付期 (月日)	萌芽 揃期 (月日)	つるの ネット頂 到達日 (月日)	8月10日			
					茎葉重 (g)	いも長 (cm)	いも重 (g)	いも径 (mm)
野菜 研究所	本年 (平年差・比)	5/25 (平年並)	6/22 (平年並)	7/14 (1日早)	567.7 (191%)	33.8 (84%)	42.6 (24%)	20.3 (57%)
	平年	5/25	6/22	7/15	297.1	40.1	174.7	35.7
	前年	5/27	6/22	7/10	234.3	40.2	178.6	38.0
五戸町 上市川	本年 (平年差・比)	5/8 (1日遅)	6/20 (7日遅)	7/15 (遅7日)	—	43.5 (89%)	219.6 (97%)	40.2 (107%)
	平年	5/7	6/13	7/8	—	48.8	225.3	37.5
	前年	5/14	6/23	7/10	—	43.3	218.3	39.0
東北町 滝沢平	本年 (平年差・比)	5/12 (3日遅)	6/3 (平年並)	7/19 (遅13日)	—	30.7 (67%)	46.7 (15%)	20.3 (49%)
	平年	5/9	6/3	7/6	—	45.7	317.6	41.8
	前年	5/14	6/8	7/1	—	52.0	487.3	46.3

注) ①平年：野菜研は令和3～令和7年の5か年の平均値

五戸町、東北町とも平成28～令和7年の10か年の平均値

なお、東北町は令和6年度から担当農家を変更した（萌芽期のデータを除き、過去のデータの蓄積があるため平年値として利用）

②種子：野菜研は園試系6の1年子（90～110g）ガンク切除（植付30日前）、五戸町は庄司系の2年子（120～150g）ガンク切除、東北町は庄司系の1年子（100g）頂芽付

③栽植様式：野菜研は畦幅120cm×株間24cm（3,472株/10a）、五戸町は畦幅120cm×株間22cm（3,788株/10a）、東北町は畦幅114cm×株間27cm（3,249株/10a）

(2) 今後の留意点

- ・「穴落ち」した場合は、速やかに修復する。
- ・8月20日以降の追肥は、茎葉の過繁茂や平いもの発生を助長するおそれがあるため行わない。
- ・葉渋病、炭疽病の防除を徹底するとともに、ナガイモコガ、アブラムシ類、ハダニ類などの害虫の早期発見・早期防除に努める。
- ・採種ほ場では、ウイルス病の伝搬を防ぐためにアブラムシ類の防除を徹底する。
- ・台風など強風や大雨に備え、ネットや支柱を補強し、明きょを手直しして排水溝へ接続するなどの対策を徹底する。

2 にんにく

(1) ほ場の準備

- ・イモグサレセンチュウなどの病害虫が発生していないほ場を選ぶ。
- ・外部からの土壌病害虫の持ち込みを防ぐため、作業は種苗増殖ほ場から行う。
- ・堆きゅう肥や土壌改良資材は、土壌診断結果に基づいて施用し、必要量以上に投入しない。
- ・緑肥は、少なくとも植付けの30日前にすき込み、石灰窒素を10a当たり40kg施用し、ロータリー耕を3回程度行う。
- ・転作田など排水の悪いほ場では、過湿による病害の多発や生育不良を防ぐため、明きょの設置やサブソイラによる弾丸暗きょなどの排水対策を実施するほか、高うね栽培とする。

(2) 種子の準備

- ・イモグサレセンチュウが発生したほ場のりん球は、種球として絶対に使用しない。
- ・ネギアザミウマ、チューリップサビダニの被害を防ぐため、種球の分割・調整はできるだけ植付け直前に行う。
- ・チューリップサビダニ、イモグサレセンチュウ、黒腐菌核病を対象とした種子消毒を徹底する。
- ・種球の保管中に20℃以下に長時間遭遇すると萌芽・発根が早まるため、室温を概ね20℃以下にならないように管理する。

3 夏だいこん

(1) 生育状況

- ・生育は、7月下旬から8月上旬の日照不足や低温の影響により、平年をかなり下回っている。
- ・病害は、白さび病の発生が見られる。

表 だいこんの生育状況（8月10日現在）

調査地点	年次	は種期 (月日)	8月10日		
			葉長 (cm)	葉数 (枚)	根重 (g)
平川市 善光寺平	本年 (平年差・比)	7/4 (平年並)	26.1 (85%)	15.6 (94%)	82.2 (73%)
	平年	7/4	30.8	16.6	112.7
	前年	7/3	42.6	21.2	260.1

注) ①平年：令和5～令和7年の3か年の平均値

②品種：勇

(2) 今後の留意点

- ・生育状況を確認しながら適期に収穫する。
- ・軟腐病、キスジノミハムシの防除を徹底するとともに、コナガ、アオムシなどの害虫の早期発見・早期防除に努める。

4 秋にんじん

(1) 生育状況

- ・生育は、7月下旬から8月上旬の日照不足や低温の影響により、平年を大幅に下回っている。
- ・病害虫の発生は見られない。

表 にんじんの生育状況（8月10日現在）

調査地点	年次	は種期 (月日)	8月10日	
			葉長 (cm)	葉数 (枚)
平川市 大木平	本年 (平年差・比)	6/20 (平年並)	15.7 (55%)	4.5 (65%)
	平年	6/20	28.3	6.9
	前年	6/19	29.5	6.6

注) ①平年：は種期は平成28年～令和7年の10か年の平均値

②品種：向陽2号

(2) 今後の留意点

- ・黒葉枯病、ヨトウムシなど病害虫の早期発見・早期防除に努める。
- ・大雨に備え、明きょを手直しして排水溝に接続するなどの排水対策を徹底する。

5 ごぼう

(1) 生育状況

- ・草丈は平年をかなり下回っているものの、葉数は平年を大幅に上回っている。
- ・病害は、黒条病、虫害は、アブラムシ類、コガネムシ類が散見される。

表 ごぼうの生育状況（8月10日現在）

調査地点	年次	は種期 (月日)	8月10日	
			草丈 (cm)	葉数 (枚)
三沢市 猫又	本年 (平年差・比)	5/7 (2日遅)	103.9 (93%)	4.1 (132%)
	平年	5/5	111.6	3.1
	前年	5/14	98.4	4.0

注) ①平年：平成28～令和7年の10か年の平均値

②品種：柳川理想

(2) 今後の留意点

- ・「穴落ち」した場合は、速やかに修復する。
- ・黒斑細菌病、黒条病、アブラムシ類等の発生に注意し、防除を徹底する。

6 夏秋トマト

(1) 生育状況

- ・7月上中旬の高温の影響により、一部では、落花や軟果、裂果等が見られているものの、着果量を確保しており、生育は順調である。
- ・病害は、灰色かび病、虫害は、アザミウマ類の発生が見られる。

表 トマトの生育状況 (8月10日現在)

調査地点	年次	定植期 (月日)	5段果房		7段果房		9段果房		11段果房	
			開花 (月日)	着果数 (個)	開花 (月日)	着果数 (個)	開花 (月日)	着果数 (個)	開花 (月日)	着果数 (個)
五所川原市 金木町	本年 (平年差・比)	5/1 (4日遅)	6/19 (5日遅)	3.7 (137%)	7/3 (3日遅)	1.8 (75%)	7/18 (3日遅)	4.2 (140%)	8/4 (4日遅)	-
	平年	4/27	6/14	2.7	6/30	2.4	7/15	3.0	7/31	2.3
	前年	5/5	6/22	3.1	7/6	3.2	7/22	4.5	8/5	3.8
三戸町 斗内	本年 (平年差・比)	5/9 (2日早)	6/30 (2日早)	2.9 (116%)	7/17 (4日早)	0.3 (11%)	8/8 (平年並)	-	-	-
	平年	5/11	7/2	2.5	7/21	2.7	8/8	1.9	8/31	1.7
	前年	5/12	6/27	2.6	7/15	2.4	7/30	1.9	8/20	2.1

注) ①平年：中泊町は、令和6年度から担当農家に変更（前担当農家は五所川原市）となったため、平年、前年ともに参考値、三戸町は平成28～令和7年の10か年の平均値

②品種：中泊町はりんか409（台木：キングバリア）、三戸町はりんか409（自根）

(2) 今後の留意点

ア 温度管理等

- ・遮光資材や肩換気などにより、適正な温度管理を徹底する。また、温度に応じてかん水量を増やしたり、通路かん水を行うほか、生育ステージに応じた肥培管理により草勢の維持に努める。
- ・9月以降は裂果の発生が多くなるので、土壌水分が極端に変化しないように水管理する。

イ 摘心

- ・雨よけ栽培では、例年9月5日頃までに開花した花房が収穫できるので、開花直前の花房の上にある葉を2枚残して摘心する。

ウ 病害虫防除

- ・灰色かび病、葉かび病、アザミウマ類の防除を徹底するとともに、タバコガ類、コナジラミ類、トマトキバガの早期発見・早期防除に努める。

エ 大雨による浸水等の対策

- ・降雨により滞水している場合は、排水を徹底する。
- ・浸水した場合は、草勢の低下を防ぐため、摘果や早採りで着果負担を軽減する。また、冠水した場合には、動力噴霧器で散水し、作物等の泥を洗い流す。さらに、マルチを除去して、株元を乾かし、根の回復を図るとともに、冠水した果実を早急に取り除く。

7 ね ぎ

(1) 生育状況

- ・生育は、草丈、茎径とも平年をかなり下回っている。
- ・病害は、さび病、べと病、葉枯病の発生がみられる。

表 ねぎの生育状況（8月10日現在）

調査地点	年次	は種期 (月 日)	定植期 (月 日)	8月10日	
				草丈 (cm)	茎径 (mm)
十和田市 洞内	本年 (平年差・比)	1/20 (7日早)	4/9 (4日早)	97.3 (92%)	22.9 (85%)
	平年	1/27	4/13	106.3	26.8
	前年	1/20	4/10	92.3	25.8

注) ①平年：令和6年から3粒播きに変更しており、平年は2粒播きであった令和2～令和5年の4か年の平均値のための参考値

②品種：夏扇パワー

(2) 今後の留意点

ア 管 理

- ・追肥・培土は、生育の進み具合に合わせて適期に行う。なお、培土は、葉の分岐部の下までを目安に行う。
- ・軟腐病を回避するため、培土は天気の良い日の地温が低い早朝に行う。
- ・最終培土は、収穫の30日前頃に行い、葉の分岐部まで丁寧に土を寄せ、軟白長30cm以上を確保する。
- ・ほ場の停滞水は生育不良の原因となるため、排水対策を徹底する。

イ 病虫害防除

- ・べと病、葉枯病、軟腐病、さび病、黒斑病、アザミウマ類など病虫害の防除を徹底する。

花 き

1 秋ギク

(1) 生育状況

- ・生育はおおむね順調である。
- ・害虫は、アザミウマ類やヤガ類が散見される。病害の発生は見られない。

表 秋ギクの生育調査（8月10日現在）

場 所	年次	品種名	定植期	草丈 (cm)	葉数 (枚)	備 考
五所川原市	本年 (平年差・比)	神 馬	7月10日 (4日遅)	32.6 (87%)	13.9 (72%)	2本仕立て
	平年	神 馬	7月6日	37.6	19.2	2本仕立て
	前年	神 馬	7月10日	36.0	17.3	2本仕立て

注) 平年：五所川原市は平成22～令和7年の15か年の平均値

(2) 今後の留意点

ア 芽かき

- ・わき芽は、小さいうちにかき取る。

イ ビーナイン処理（施設栽培のみ）

- ・花首の伸びやすい品種は、ビーナイン顆粒水溶剤等を発らい期に散布する。効果が不十分な場合には摘らい期に2回目の散布を行う。

ウ 温度管理

- ・奇形花の発生を防ぐため、高温時には換気を十分に行い、必要に応じて循環扇や寒冷しゃ等を活用し、施設内温度を少しでも低く管理する。

エ 病虫害防除

- ・白さび病の予防のほか、ヤガ類やアザミウマ類等の害虫が発生しやすい時期なので、早期発見・早期防除を徹底するとともに、ほ場周りの除草や残さの除去等、害虫が発生しにくい環境づくりに努める。

2 夏秋ギク、トルコギキョウの今後の留意点

(1) 夏秋ギク

ア 病虫害防除

- ・白さび病の予防を行うとともに、アザミウマ類、アブラムシ類等の発生に注意し、早期発見・早期防除に努める。

イ 収穫

- ・2～3分咲きを目安に収穫する。
- ・収穫は涼しい時間帯に行い、切り口を乾かさないようにする。早朝に収穫する場合は、朝露に濡れたまま収穫すると荷傷みの原因となるので乾いてから行う。

ウ 親株の管理

- ・収穫後の株を翌年の親株にする場合は、形質が優良で、病害に侵されていないものを残す。
- ・親株は地際から約10cmの高さで刈り込み、直ちに追肥し、土寄せする。追肥量は、1アール当たり窒素成分で0.2～0.3kgを目安とする。

(2) トルコギキョウ

ア かん水

- ・発らいまでは根の張りをよくするため、乾湿の差をつけて管理する。発らい後はしおれない程度にかん水を減らして軟弱徒長を防ぐ。

イ 温度管理

- ・ハウス内が高温・過湿にならないように換気するほか、循環扇、寒冷しゃ等を活用し、適正な温湿度管理に努める。

ウ 側枝等の整理

- ・ 不要な側枝は早めに摘み取る。また、頂花らい（1 番花）も早めに除去し、上位節から発生する分枝の伸長を促す。

エ 病虫害防除

- ・ アザミウマ類やヤガ類の発生に注意し、早期発見・早期防除に努める。

オ 収穫

- ・ 涼しい時間帯に収穫し、速やかに品質保持剤による前処理を行う。

3 お盆向け作型の収穫状況

（1）夏秋ギク

- ・ 収穫盛期は、おおむね平年並の 8 月上旬であった。

表 夏秋ギクの収穫時期（8 月 18 日現在）

場 所	年次	品種名	定植期	収穫期		
				始	盛期	終
新 郷 村	本 年	精の一世	4 / 23	7 / 29	8 / 5	8 / 13
	(平年差)		(3 日遅)	(平年並)	(1 日早)	(1 日早)
	平 年	精の一世	4 / 20	7 / 29	8 / 6	8 / 14
	前 年	精の一世	4 / 22	7 / 30	8 / 6	8 / 14
五所川原市	本 年	岩の白扇	4 / 7	7 / 30	8 / 3	8 / 7
	(平年差)		(10 日早)	(6 日早)	(5 日早)	(4 日早)
	平 年	岩の白扇	4 / 17	8 / 5	8 / 8	8 / 11
	前 年	岩の白扇	4 / 20	8 / 13	8 / 15	8 / 17

注) 新郷村の平年値：令和 3～7 年の 5 か年の平均値

五所川原市の平年及び前年値：平成 30～令和 7 年の 8 か年の平均値（令和 8 年度から担当農家が変わったため参考値）

（2）トルコギキョウ

- ・ 収穫盛期は、おおむね例年並みの 7 月下旬から 8 月上旬であった。

表 トルコギキョウの生育状況（8 月 10 日現在）

場 所	年次	品種名	定植期	収穫始	収穫盛期	収穫終	備 考
黒石市	本年	トルコギキョウ	5 / 9	8 / 2	8 / 7	8 / 11	購入苗
	前年	トルコギキョウ	5 / 4	7 / 22	7 / 25	7 / 29	購入苗
(参考)	本年	ひこ星	3 / 26	7 / 16	7 / 23	7 / 30	購入苗
青森市	前年	ひこ星	4 / 10	7 / 21	7 / 26	8 / 1	購入苗

注) ①青森市は令和 5 年から品種が変更されたため、平年値なし

②黒石市は令和 4 年から園地が変更されたため、平年値なし

畑作・野菜・花き生産情報第6号は令和8年9月18日発行の予定です。

◎『日本一健康な土づくり運動』展開中 ～元気な作物は健康な土が育みます～

土壌診断に基づく適正施肥や土壌改良は、施肥コストの低減にもつながります。

緑肥を活用し、作物の生育に好適な土壌環境づくりを心がけましょう！

効率よく堆肥を使い、堆肥の肥料成分を考慮した化学肥料の低減に努めましょう！

◎環境にやさしい農業に取り組んで、「みどり認定」を受けましょう。

みどりの食料システム法に基づき、土づくりと化学肥料・化学農薬の使用低減などに取り組む農業者を認定（みどり認定）しています。認定を受けると、設備投資の税制優遇や国庫補助事業の優先採択、低利・無利子融資などのメリットがあります。

https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/noen/midori_kihontekinakeikaku.html

◎令和8年度青森県農薬危害防止運動展開中（6月1日～8月31日）

- 1 農薬を使用する際は、必ず最新の登録内容を確認し、適正に使用しましょう。

○農林水産省「農薬情報」

https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/

○農林水産省「農薬登録情報提供システム」

<https://pesticide.maff.go.jp/>

- 2 飛散防止に努め、住宅地等の近隣で使用する際は、事前に周囲に知らせましょう。
- 3 クロルピクリン剤など土壌くん蒸剤を使用する際は、必ず厚さ0.03mm以上又は難透過性の被覆資材で被覆しましょう。
- 4 市販の除草剤には、農作物等の栽培管理に使用できない「農薬ではない除草剤（農薬ではない、非農耕地専用などと記載）」があるので、注意しましょう。
- 5 農薬は使い切りを徹底し、河川等には絶対に捨ててはいけません。

◎食中毒を防ぐため、生産段階から「野菜の衛生管理」に努めましょう。

- 1 栽培に使用する水の衛生管理や水質の確保に努めましょう。
- 2 家畜ふん堆肥は、水分調整や定期的な切り返しを行い、十分発酵させましょう。
家畜ふん中の菌の死滅には、55℃以上の温度が3日以上続いている状態が必要です。
堆肥の製造工程では、この温度条件を確認しましょう。
- 3 家畜ふん堆肥を野菜栽培に使用する際は、製造工程や熟成度を確認しましょう。確認できない場合には、堆肥施用から収穫までの期間を、収穫部位が土壌から離れた野菜は2か月、土壌に近い野菜は4か月空けましょう。
- 4 農機具や収穫容器等は清潔な状態を保ち、汚水の流入や野生動物の侵入防止等、栽培環境の整備にも努めましょう。

※ 野菜の衛生管理指針、家畜ふん堆肥の生産・利用の注意点はこちら

→https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/sanzen/yasai_eiseikanri.html



◎備えあれば、憂いなし！ 農業保険を活用しましょう！

自然災害や価格下落など、農業経営を取り巻く様々なリスクに備えるため、自分の経営にあった農業保険（国などが掛金の一部を補助する公的保険制度）を活用しましょう。

1 自然災害リスクをカバーしたい方

農業共済（農作物共済・畑作物共済・園芸施設共済）は、全ての農業者を対象に、米、麦、畑作物、農業用ハウスなどが自然災害によって受ける損失を補償します。

※ナラシ対策や野菜価格安定制度等を利用することもできます。

2 様々なリスクをカバーしたい方

収入保険は、青色申告を行っている農業者を対象に、自然災害や価格低下だけではなく、農業者の経営努力では避けられない収入減少を広く補償します。

※詳しくは、お近くの農業共済組合までお問い合わせください。

◎熱中症予防運動を展開中です（6月1日～8月31日）

農林水産業分野での熱中症による救急搬送された方は近年増加傾向にあり、令和7年は47名が救急搬送されています。

これからの暑い季節は、農作業中に熱中症になるリスクが大きくなりますので、こまめな休憩と水分・塩分補給を行い、立ちくらみやめまい等の熱中症の疑いを感じたら、作業を中止し、体調の回復に努めましょう。

◎労働者への熱中症対策が義務化（罰則あり）されています。

昨年6月に労働安全衛生規則が改正され、労働者を雇用する全ての事業者に対して、熱中症対策が義務付けられました。

熱中症対応フローなど必要事項を記載した「張り紙」を事務所等に掲示しましょう。

「張り紙」のひな型については、青森県農業・就農情報サイト「農なび青森」に掲載しています。

詳しくは「農なび青森 熱中症対策」で検索してください。

◎ツキノワグマ出没警報発令中!!（4月20日～11月30日）

1人での作業をできるだけ避け、ラジオやクマよけスプレーを携帯するなど、人身被害の防止に努めましょう。

野菜・果実等の収穫残さや弁当の空容器などは、クマを引き寄せる原因となるため、農地に放置せず、適切に処理しましょう。

農地周辺の藪を刈払って見通しを良くすることで、クマの隠れ場所を無くし、クマが農地に近づきにくい環境を整えましょう。

詳細は県ホームページをご確認ください。

(https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kankyo/shizen/kuma_cyuui.html)

連絡先	農産園芸課 稲作・畑作振興グループ
県庁内線	5073
直通	017-734-9480
	野菜・花き振興グループ
県庁内線	5076
直通	017-734-9481